

問一(単語)

形容詞「便なし(びんなし)」の持つ意味として、最も適切なものを次の中から二つ選べ。

- ① 頼りにならない
- ② 不都合だ
- ③ かわいそうだ
- ④ 感心しない(けしからぬ)

問二(単語)

動詞「ねぶ」の意味を答えよ。

問三(文法)

「え～(打消語)」の呼応の副詞の形になった時、どのように現代語訳するか。

問四(文法)

「な～そ」(例:な知られ給ひそ)の形が表す意味を答えよ。

問五(文法・識別)

補助動詞「たまふ」について、四段活用(たまハ・たまヒ・たまフ...)の場合と、下二段活用(たまへ・たまへ・たまフ...)の場合の、それぞれの敬語の種類(尊敬・謙譲・丁寧)を答えよ。

問六(単語・多義語)

動詞「かづく」について、四段活用(かづか・かづき...)の場合と、下二段活用(かづけ・かづけ...)の場合の、それぞれの代表的な意味を答えよ。

問七(文学史)

『落窪物語』と『源氏物語』、成立したのはどちらが先か。

【解説】

問一(単語)

正解: ② 不都合だ、④ 感心しない(けしからぬ)

【解説】

「便なし(びんなし)」は重要度Sランクだ。「便(びん)」とは、物事を行うための便宜や手段のこと。それが「無し」なのだから、「具合が悪い」「不都合だ」というのが原義だ。

そこから派生して、行儀や道徳的に具合が悪い、つまり「感心しない」「けしからぬ」という意味でも頻出する。

・②不都合だ(事態・状況が悪い)

・④感心しない(人の行いが悪い)

この二つの軸で押さえておけば十分だ。「かわいそうだ」は「不便(ふびん)」や「いとほし」の領域だから混同するな。

問二(単語)

正解: 大人びる、成長する

【解説】

「ねぶ」を見たら即座に「おとな」という言葉を連想しろ。「おとな・ぶ」が語源だという説が覚えやすい。

文脈によっては「老ける」という意味も辞書には載っているが、入試で問われるのは圧倒的に「成長して大人っぽくなる」というプラスのニュアンスが多い。深読みせず、まずは「大人びる」で固定だ。

### 問三(文法)

正解: ～できない

#### 【解説】

「え～(打消語)」の呼応(陳述の副詞)。これは古文の基本中の基本だ。

下に打消の語(ず・じ・まじ・で・など)を伴って、不可能を表す。

現代語訳の問題で出たら、必ず「～できない」と訳すこと。「～ない」だけでは減点対象になるぞ。

- ・例: 言はず(言うことができない)

### 問四(文法)

正解: ～してくれるな、～してはいけない(禁止)

#### 【解説】

「な～そ」は「禁止」の構文だ。

ただし、単なる「～するな」という強い命令・禁止よりも、少し柔らかいニュアンスを含むことが多い。「～しないでくれ」というあつらえ(懇願)の気持ちが入る場合があることを知っておくと、選択肢の微妙なニュアンス差に対応できる。

- ・直訳: ～するな
- ・訳し分け: ～しないでくれ(文脈に応じて)

### 問五(文法・識別)

正解:

- ・四段活用: 尊敬語(～なさる、お～になる)
- ・下二段活用: 謙譲語(～てさしあげる、～申し上げる)

#### 【解説】

これは私大入試の頻出ポイント!

「たまふ」は活用によって敬語の種類が変わる。

- ・「は・ひ・ふ・ふ・へ・へ」(四段)なら尊敬。
- ・主語(動作主)を高める。
- ・「へ・へ・ふ・ふる・ふれ・へ」(下二段)なら謙譲。
- ・目的語(受け手)を高める。

見分け方は、直後の語に続く形を見る。「たまひて(連用形)」なら四段(尊敬)、「たまへて(連用形)」なら下二段(謙譲)だ。

なお、下二段の「たまふ」は、基本的に「会話文」や「手紙文」の中でしか使われないという点も、知識として持っておくと有利だ。

問六(単語・多義語)

正解:

- ・四段活用:被る(かぶる)、(頭や肩に)乗せる
- ・下二段活用:与える、(褒美を)授ける

【解説】

これも「たまふ」同様、活用で意味が真逆になる重要単語だ。

イメージを持て。

- ・四段(自発的アクション):自分が「かぶる」。頭に頂く。水に潜るという意味もある。
- ・下二段(他へのアクション):人に「かぶらせる」。つまり、着物を褒美として肩に掛けてやることから、「与える」という意味になる。

「帝、御衣(おんぞ)かづけ給ふ」とあれば、帝が着物を自分でかぶっているのではなく、誰かに褒美として「与えた」ということだ。ここを読み違えるとストーリーが破綻する。

問七(文学史)

正解:『落窪物語』が先

【解説】

平安時代の作り物語の流れを押さえろ。細かい年号はいらない。順序が命。

- 1.『竹取物語』(伝奇的・虚構)
- 2.『伊勢物語』(歌物語)
- 3.『宇津保物語』
- 4.『落窪物語』(継子いじめ・写實的)
- 5.『源氏物語』(集大成)